

樹医からのアドバイス (Vol.25)

～梅は春の訪れを告げる樹木～

出雲市樹医センター

樹医 永瀬 明

梅は松、竹とともに風雪や厳寒に耐え、寒い中でも一斉に咲く清らかな花で「歳寒三友」とも呼ばれ、サクラなど他の花に先駆けて咲きます。日本では「松竹梅」とされて、おめでたいものとして慶事に使われます。

梅は奈良時代以前に中国から渡来したとされ、今では、日本の風土に同化した樹木のひとつで「花ウメ」と「実ウメ」があり、品種の多くは近縁種のアンズとの交雑です。

【生育環境】

やせた礫が多い土地でも生育し、堅い地層にも根を発達させる、たくましい樹木です。日当たりが良く肥沃で水はけの良い土壌を好みますので、休眠期に有機質を中心とした寒肥を施して新梢の生育の手助けをします。

【せん定作業】

花芽が小さくわかりにくい場合は大きくなり、はっきりと確認できるまで待ちます。

花芽が膨らみ蕾になってからは、蕾が傷んだり咲かずに落ちたりしますので開花後すぐに行います。

【冬期の虫害対策】

冬期に用いられる薬剤はごく限られたものしかありませんので、捕殺やせん定を併用すると効果があります。

主な虫害の発生箇所と一口対処法

◆ カイガラムシ

小枝や樹幹に殻で越冬。ヘラ・古歯ブラシで擦り取る。せん定時に切り取る。マシン油剤を散布する。

◆ オビカレハ (ウメケムシ)

小枝に産み付けた卵で越冬。せん定時に切り取る。

◆ イラガ

小枝や樹冠にマユで越冬。見つけ次第捕殺する。



早春の花「ウメ」